

北見緑陵 連合チームで挑む

津別の2人と合同練習

北見市営球場で20日開 他校と組んで出場するの
幕する秋の全道高校野球 は1983年の創部以来
北見支部予選で、北見緑 初めて。少子化で存続が
陵は津別との連合チーム 難しい野球部が増える
で出場する。北見緑陵が 中、選手の出場機会を増



打撃練習をする北見緑陵の上田主将(右)と津別の橋本選手(左野飛撮影)

初戦突破へ闘志 声かけ合い深まる絆

やす狙い。大会を前に北
見緑陵と津別の選手は合
同練習を重ね、一体感を
高めている。

1、2年生の新体制で
今秋の大会に臨む北見緑
陵は、守備を置きながら
の投打の練習、ティーバ
ッティングやノックなど
の練習に日々汗を流して
いる。その練習に8月上
旬から加わっているのが
津別の橋本恵汰選手(2
年)と藤田彪杜選手(同)。
2人は片道1時間半ほど
かけて北見緑陵に通って
いる。

日本高校野球連盟によ
ると、硬式野球の部員数
は、記録の残る1982
以降、14年にピークとな
る17万人以上に達したも
の、その後は11年連続
で減少をたどる。

昨秋の北見支部予選か
ら津別と連合チームを組
んだ斜里は、今大会は不
参加。7人いた3年生が
今夏の大会で引退し、部
員数は1年生と2年生の
2人となった。選手の意

向も踏まえ出場を辞退し
たという。

北見緑陵は1年生6
人、2年生6人の12人。

単独での出場も可能だっ
たが、「2人から野球を
するチャンス逃したく
なかった」との白方幸
監督の思いもあり、連合
チームでの出場を決め
た。津別の小堀健介監督
は「大人数の中で、練習
できるのは2人にとつて
貴重な経験。多くの学校
が出場することで支部大
会が盛り上がると思う」
と話している。

津別の橋本選手と、北
見緑陵の上田健太主将
(2年)はともに北見北
光中の野球部出身。橋本
選手は「緑陵の練習にも
なじみやすかった」と話
す。上田主将は「声をか
け合いながら練習するこ
とを意識していて、チー
ム仲は良い」。練習を重
ねるうちに下の名前で選
手同士が呼び合うようにな
ったという。

連合チームの1回戦の
相手は今夏支部代表の北
見北斗。初戦突破に向け
て闘志を燃やしている。
(佐藤菜々子、嶋崎由紀)